

課題番号	5-2	分野名	鳥獣	予算区分	国庫・ <u>県単</u>
研究課題名	獣害対策としての森林整備手法に関する研究 〔林業被害対策資材の効果や持続性等の検討〕				
担当者名	丸山 哲也・矢野 幸広		研究期間	平成 24～26 年度	

目的

人工林におけるクマやシカによる樹皮剥ぎ等対策資材の効果と持続性及び、維持管理のあり方について検討するとともに、低コストな資材を用いた効果試験を行う。

方法

①梱包ロープ（肥大成長に対応した結束手法）

- ・調査地 塩谷町西古屋地内
- ・調査開始 平成 24 年 5 月 25 日
- ・調査区 2 段巻き 70 本中 50 本
1 段巻き 70 本中 50 本
対照区 70 本
- ・調査状況 毎年春と秋に新規被害発生状況、資材の状況を調査



図 1. 梱包ロープ

②ウィリーGP（ハーフタイプ）

- ・調査地 日光市山内（2カ所）及び鹿沼市板荷（1カ所）
- ・調査開始 平成 24 年 11 月 20 日（日光）及び平成 24 年 11 月 28 日（鹿沼）
- ・調査区（1カ所あたり） 2 段巻き 100 本中 25 本
2 段巻き 100 本中 50 本
1 段巻き 100 本中 25 本
1 段巻き 100 本中 50 本
対照区 100 本
- ・調査状況 毎年春と秋に新規被害発生状況、資材の状況を調査



図 2. ウィリーGP

③防鹿柵（ネットコップ）及び剥皮被害防止資材（ARC）

- ・調査地 鹿沼市上粕尾地内
- ・調査開始 平成 25 年 11 月 26 日
- ・調査区 防鹿柵（ネットコップ）200m
剥皮被害防止資材（ARC） 360 本
対照区 150 本
- ・調査状況 防鹿柵はセンサーカメラによる監視と毎年春と秋に資材の状況を調査
剥皮被害防止資材は毎年春と秋に新規被害発生状況、資材の状況を調査



図 3. 防鹿柵（ネットコップ）及び剥皮被害防止資材（ARC）

結果概要

①梱包ロープ（肥大成長に対応した結束手法）

一部の処理木に、小動物によると思われるちぎれや緩みが発生しているが、シカやクマの新規被害は発生していない。

②ウィリーGP（ハーフタイプ）

一部の処理木に、小動物によると思われる緩みや外れが発生している。日光地区では新規被害がほとんど発生していない。鹿沼地区では平成 25 年秋に、50 本 2 段巻きの資材設置木 5 本にクマによる新規被害が確認された。

③防鹿柵（ネットコップ）及び剥皮被害防止資材（ARC）

防鹿柵は、平成 26 年 2 月の積雪による支柱の倒伏が発生している。

施工不良によると思われるズレが 79 本発生していた。対照区も含め、新規の剥被害は発生していないが、平成 26 年 2 月の雪害による倒木が多数発生している。